

(2006/02/25 08:00 登録)

平成十八年二月二十二日(水曜日)

午後一時開会

(中略)

○会長(西田吉宏君) 国際問題に関する調査を議題といたします。

本日は、本調査会の調査テーマであります「多極化時代における新たな日本外交」のうち、日本のアジア外交に関し、東アジアにおける経済戦略と東アジア共同体構築への対応について参考人から御意見をお伺いした後、質疑を行います。

なお、本日は、一橋大学大学院商学研究科教授小川英治参考人及び東亜キャピタル株式会社代表取締役社長津上俊哉参考人に御出席いただいております。

(中略)

○会長(西田吉宏君) それじゃ、白眞勲君。

○白眞勲君 民主党・新緑風会の白眞勲でございます。お二人の参考人、非常に関心のあることを本当に分かりやすく説明していただきまして、大変ありがとうございました。

まず、小川参考人にお聞きしたいんですけれども、私も何かこういう共通の通貨って必要なんだろうなということは感じておりまして、実は私も今はこういう議員をやっているわけでございますけれども、その前、民間企業にいたときにやっぱり、ある韓国系の企業にいたせいでしょか、いつもこの為替レートにはもうほとんど辟易していたわけございまして、まず、何だ、銀行で何とかチャージ何とかチャージって何でこんなに一杯取られるんだというのもあるし、それから一度は、あれは何でしたっけね、急に円がじゃんじゃんじゃん上がったことがあるんですよ。その最中に大きな買物を実は韓国で、ウォンじゃない、円で買ってひどい目に遭ったことがありまして、結局、こちら側のメーカーさんには何だ、天災だと、これは天災だということで、契約書による天災条項を利用して何とかしのいだと、お互いに痛み分けをしたことがあるぐらいなもので、こういう共通通貨でこういう形にすることによって、その為替のリスクというものをなくすということだけでも各日本企業のみならず、アジアに置く企業というのは相当な分量のその消耗がなくなる

んじゃないのかなんていうふうにも感じているわけでございます。そういった面では、早くこういうのをやってよねというのがあるわけですが。

先ほど申しあげました銀行のこの送金手数料とか、そういったものもやっぱりまず第一段階としてそこから、やっぱりそういう何とか手数料というのを低くすることをまず話し合っって通貨の移動をどんどんさせることも必要なんじゃないのかなと思います。

私のところでも、本当にささいなお金を送るのにも、場合によってはたしか六千円ぐらい取られるんですよ、あの送金手数料が。そうすると、一万円送って六千円取られちゃったらとんでもない話になっちゃうわけですし、結局まとめて送るよねという話になってしまうと。そういったこともあるんで、まずその銀行の段階が一つあるんじゃないかなというのがあるんですけども。

もう一つは、やっぱり九七年の東南アジアの、今何度も出てきている例の通貨危機の関係でいうと、金大中大統領が当時、あれはソロスさんでしたっけ、と実際に会って話をしたりとか、そういう投機マネーとかヘッジファンドとかそういう攻撃なんじゃないかとか、いや、これはアメリカの陰謀だとか、いろいろ、何かありとあらゆるうわさがあるわけですし、今も韓国の通貨ウォンが日に日に強くなってきているというのも一つの政治的な動きではないん

だろうかという部分があるわけだと思うんです、そういうふうに言われている部分もある。

そういう中で、このアジア通貨同盟をすると、結局その中で、一つには、もちろんその国内の政治の安定性というのも非常に重要だと思いますけれども、もう一つは、やはりそういういろいろな攻撃と言っているのかどうか分かりませんが、そういったものからのどうやって守っていくかということも一つの大きなポイントになるのではないだろうかというふうに思うんですが、その辺についての御見解もお聞きしたい。

それからもう一つは、やはり決済銀行は先生の言うAMUの場合にも何か必要なのかなというのがあるんですが、その辺についてもお聞きしたいということでございます。

それと、津上参考人にお聞きしたいんですけれども、私も、観光交流というのでも私も大賛成でございます。ともかく、やっぱりまず行ってみると、行ってもらうと、来てもらうということは非常に重要だと思うんですけれども、ジャルパックの例を出されましたけれども、ジャルパックの場合には、日本人の習性と言っちゃなんでございますけれども、行ったら必ず帰ってくるというところがあるんですが、外国の方の場合には行ってもなかなか、そのまま

居着いちゃうという人もいるらしくて、その辺で、この文書にも書いてあるように、問題のない中国人の来日機会を増やすというのも、なかなかこれも、何というんでしょうね、どういふふうにしていくかという工夫がやはり必要になってくるんじゃないかなというふうに思うわけですがけれども。

人の移動を促進することは、それは物の移動であり、技術の移動であり、いろいろな移動が促進されるとは思いますがけれども、私は、一つにはやはり文化交流というのもすることによって、人の移動よりもまずは、例えば中国との関係でいうなら、もっと文化で、日本のいろいろな漫画とかそういったものも含めて、どんどん交流の機会を進めていくという方向性から徐々に進めていく方法もあるんじゃないかなというふうに思うんですがけれども、その辺についての先生の御意見を聞きたいと思っております。

以上です。

○参考人(小川英治君) まず、銀行の送金手数料については、これはやっぱり私自身高過ぎると思うんですが、ただこれはまたちょっと別の話題になるかと思うので、銀行の産業の寡占とか、あるいはその規制とか、あるいは競争政策をどうするかという話なので、そこはちょっと差し控えさせていただきます。

それから、私自身、おととい、昨日、韓国行ってたんですけれども、空港で一円が七・九ウォンで、ひところより二〇%ぐらいウォン高で、交換しようと思ったんですが、ちゅうちょして交換しないで、手持ちのウォンだけで過ごしてきて帰ってきたんですけれども、やはりそういう意味で通貨が、ここ数か月でウォン非常に高くなっているわけですね。それは二〇%高くなっているというのは、これはやはり異常なことです。ただ、韓国、日本でもそうなんですが、今、日本、韓国、両方とも当局、通貨当局は介入全くしない状況になっています。それが逆に為替相場をそういうふう大きく変動させているということにあるかと思います。ですから、そういう意味で、ある程度動き始めたらどっか上限下限を決めてお互いの国で介入し合うという、そういう制度を例えば日本と韓国の間で結んでおくと、私がおととい経験したようなウォン交換するのをちゅうちょするというようなことはなくなってくるのかなと思います。

あと、それからもう一つ、投機家からの攻撃に対してどう守るかということで、現状、チェンマイ・イニシアティブでは、危機になったときに、危機になったことを認識して、調査して、その上でしかもIMFがそこにお金を貸すという条件の下でチェンマイ・イニシアティブは動くという、そういう意味で機動性のない状態にあります。それを控えるためには、例えば東アジアの中である程

度ファンドをつくって、そこで危機になったらそこからお金を貸してあげるとい
う、機動性の高いものにしていくというのが投機からの攻撃を守ることになっ
ています。しかも、たくさんファンドがあるということになると投機家も攻撃し
にくくなるわけですね。ですから、そういう意味でそういうものをつくっていくと
いうことが必要だと思います。

それから決済については、先ほど話題にありましたアジア債券市場イニシ
アティブで、そちらの方で決済についての、インフラの整備ということも議論
されておりますので、そちらの方が進んでくるかと思えます。

以上です。

○参考人(津上俊哉君) 文化交流みたいなもの大事じゃないかというお話
で、全くそのとおりだと思います。

私も必ずしも全部をよく知りませんが、そういう目で眺めてみると、
政府のやっているようなもの以外に非常に多くのNGO、NPOみたいな形で
の日中交流というのに携わっておられる方々が一杯おられるわけでありまし
て、こういうふうなものを、何というか、更に進めていけるといいなという気が
いたしますが、今後は向こうからもこっちへ来るといふような双方向化で、何
というか、やれるといいなと思えます。

また、それから、今この二年間ぐらいで随分と進展を見てきた交流の仕方として、中国人に対する団体観光ビザの発給という制度があるわけでありませう。これはまあ徐々に徐々に、何というか、ビザの発給に浴せる中国の地域なんかも拡大をしていくという形で進んできたわけでありませうが、これは私は比較的うまくいっている例かなと思います。

もちろん、そういうふうな、何というか、その団体観光の枠組みを使ってこっちへ来たらどろんしちゃってという人が皆無ではありませんけれども、事故率みたいなパーセンテージを国際的な、何というか、相場観に照らすと非常に事故率低く運用ができている部類なのかなというふうに思っておりまして、その背景には恐らく、そういう事故を起こしてしまうともうしばらくの間、何というか、対日観光業務に従事できなくなってしまうというふうな、ある種、制裁措置みたいなものがあるって、中国側の旅行社も、何というか、相当神経を使ってツアーの組成に当たっているというふうな、そういう運用が多分その背景にあるんだろうと思いますが、こういうふうな形で一步一步、何というか、拡大をしていけるといいのかなというふうに思います。

あと、それから、比較的管理しやすく事故も起きにくくという、しかもすごく効果が、何というか、期待できるという交流類型としては、中国人の学生生

徒の対日修学旅行というジャンルがあるのかなと思います。非常に感受性の強いティーンエイジャーの時代に、何というか、日本を見るというふうな機会があるというのは、これは非常にいいことだと思います。中国も、子供たちをそういうふうな海外修学旅行に出せるぐらいのお金のある階層というのも、もちろん全部ではありませんけれども、そういう人たちも出てまいったということです。そういうふうなところも力を入れていけたらいいのかなと思います。

他方、冒頭説明の中で申し上げましためり張りという観点からいうと、もっと取れる、何というか、不法行為の取締りみたいなのところでやれることもやるということとの抱き合わせであるべきだと思います。

そういう観点で思い起こしますのは、非常に世間を震撼させた福岡の一家皆殺し事件という中国人犯罪が起きたわけではありますが、中国へ逃げた犯人たちがほどなく中国国内で現地公安に拘束をされたということがございました。多分、日中の警察の連携プレーみたいなものがその背景にあったことだろうというふうに思います。

聞くとところによると、東京の中国の大使館にも公安からの、何というか、アタッシェが駐在するようになったというふうな変化もあるように聞いておりま

すけれども、こういうふうな、何というか、関係プレーによって本国へ逃げ帰っても無駄だということになったというのは、これは悪いことする人間にとっては非常に大きなゲームのルールの変更だったと思うんですね。以前は何をしても逃げてしまえばもうこっちのもんというゲームだったのが、逃げると今度は日本の警察よりもはるかに怖い中国の公安が待っているというそのルールの変更が起きたというのは、これは非常に大きかったと思うんですね。

こういう関係プレーが功を奏するというのであれば、もっとそれを強化することはできないのかという気がいたしますし、あるいは法務省であるとか、外務省のビザの査証部門だとか、そういうふうなところでももう少し予算を付けて、何というか、いろんな情報化を進めればもっと効果的な取締りができるような領域というのはまだまだ残っていると思いますので、そういうふうな部門にも、何というか、対策強化をしながらやっていくというふうなことができたらいんじゃないかなと思います。

(以下、省略)